

実施報告書

沖縄市オープンデータ アイデアソン

OKINAWA CITY OPENDATA IDEATHON

2023 \ データを活用した地域課題の解決 /



令和6（2024）年3月

主催：沖縄市 企画部 DX戦略室 DX推進課
企画・運営：アイパブリッシング株式会社

本事業全体の方針

本業務は、オープンデータの普及および利活用の促進を図ることを目的に市民自らが、沖縄市の地域課題を考え、公開データやビックデータなどを活用した沖縄市の地域課題解決に繋がるアイデアソンを開催することにより、オープンデータの普及および利活用を推進するものである。

沖縄市は国際観光文化都市を目標に掲げており、その目標達成に向け「観光」「文化」をテーマとして取り上げ、本アイデアソンで出た「市民が望むオープンデータ」を「オープンデータセット支援業務」の事業にてデータセット選定の参考にする。

オープンデータを有意義に推進していくために 市民と協働してオープンデータに取り組む土壌づくり

一般市民向けアイデアソン

地域社会での様々な経験に当てはめてもらうために、様々な社会課題解決事例とデータとの関連性を学びながら、自らの周りにある地域課題や観光文化都市を目指す沖縄市にとってどのようなオープンデータがあると利活用できるのかを議論してもらう。

学生向けアイデアソン

「オープンデータ」そのものがまだ一般的ではないが、オープンデータの活用は新たなビジネスや産業の創出を促進する可能性がある。将来の社会を担う学生が早い段階からオープンデータを理解することで、社会全体でのオープンデータへの認知度や利活用の促進が期待されている。今回、ベンチャー企業講座も担当している琉球大学 国際地域創造学部の大角玉樹教授の協力のもと、学生向けアイデアソンを事前講座と合わせて1日開催することとなった。

全国的にシビックテック（市民自らがICTを活用して行う地域課題解決活動）やオープンデータの見識が高く、日本初のシビックテックコミュニティである一般社団法人コード・フォー・カナザワの代表理事を務めている。福島氏は市民活動として様々な地域課題解決プロダクトを作ってきただけでなく、オンラインも含めた市民活動研修を全国で依頼され行なっている。



メイン講師：福島 健一郎氏

沖縄市オープンデータ利活用推進事業 にて実施した講座・アイデアソン

沖縄市としてオープンデータを有意義に推進していくために、市民のニーズを吸い上げる仕組みや、市民と協働してオープンデータに取り組む土壌づくりへと繋げるためのアイデアソンを実施しました。アイデアソンを実施するにあたり、オープンデータの基礎知識等を含む事前講座2回を設けその後、アイデアソンを開催した。

一般市民向けアイデアソン



アイデアソン事前講座① ～オープンデータについて学ぼう～

日時：2023年10月7日（土）14:00～16:00
会場：沖縄市役所地下2階 大ホール 参加者：13名



アイデアソン事前講座② ～データについて学ぼう～

日時：2023年10月28日（土）14:00～16:00
会場：沖縄市役所地下2階 大ホール 参加者：11名



オープンデータアイデアソン ～オープンデータを考えてみよう～

日時：2023年11月25日(土) 14:00～17:00
会場：沖縄市役所地下2階 大ホール 参加者：12名（対面参加）、4名（リモート参加）

学生向けアイデアソン



アイデアソン事前講座 ～オープンデータとソーシャルビジネス～

日時：2023年10月29日（日）10:40～12:00
会場：琉球大学 文系講義棟 114教室 参加者：66名



オープンデータアイデアソン ～オープンデータを考えてみよう～

日時：2023年11月25日(土) 14:00～17:00
会場：琉球大学 図書館（ラーニング・コモンズ）

沖縄市オープンデータアイデアソン に向けた事前講座

事前講座① オープンデータについて学ぼう

2023年10月7日（土）14:00～16:00 沖縄市役所地下2階大ホール 参加者：13名

講座の前半では、オープンデータの基礎知識について解説しました。オープンデータの意義や目的から始め、定義について説明した後、利活用側として知っておくべき著作権ルールとして「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」にも触れ、二次利用可能なルールについて解説し、利用する際のクレジット表記についても説明しました。

沖縄県内での取組状況に加え、沖縄市が出しているオープンデータのご紹介をしました。その後、講座の後半では国内外の利活用事例を取り上げ、官民協働の取り組みやシビックテック活動におけるオープンデータ活用についてもご紹介しました。

事前講座② データについて学ぼう

2023年10月28日（土）14:00～16:00 沖縄市役所地下2階大ホール 参加者：11名

講座の前半は、データの基礎知識について解説しました。データは客観的な意味はなく、コミュニケーションを通じ、データに意味付けを行い情報として利用することに意味があること、認知バイアスによってはデータから読み取れる情報に変化があること、といった内容の講義を行いました。

講座の後半では、データ標準化についての解説と共に新しいデータ体系GIFの位置付けと効果について説明しました。データ項目が共通化されることで、分野横断で活用が容易に行えること、データ連携が行われることで、Society5.0が実現していくことを話しました。最後にスマートシティの実現には「共創」「協働」が不可欠であること、デジタル人材が求められていることを解説しました。



沖縄市オープントータアイデアソン

～地域課題解決のためのアイデアを出そう～

2023年11月25日（土）14:00～17:00 沖縄市役所地下2階大ホール 参加者：12名（対面参加）、4名（リモート参加）

アイデアソンとは、「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語です。テーマを定めた上でアイデアを出し合い、それらをまとめて形にしていくワークショップになります。

沖縄市は国際観光文化都市を目指しており、その目標達成のために今回は「観光」と「文化」にテーマを絞り、取り組んでもらいました。


「沖縄市オープントータアイデアソン」の進め方は以下の通りです。

- ① 沖縄市の「観光／文化」に注目し、どんなものがあるのか出し合う
- ② 沖縄市の「観光／文化」の中で感じる課題を考える
- ③ その課題を解決するアイデアを考える
- ④ アイデア実現に必要なデータはなにかを考える

「観光」「文化」チームに分かれ、事務局にて用意した模造紙の真ん中にテーマを記入し、それにまつわる課題を付箋紙に書いて貼り付けていきました。その時、気をつけてほしいことは、「声に出して読んで貼る（聞いてあげる）」、「ほめる（良いものはどんどんほめる）」、「活用する（それに乗かって書く）」であると参加者に伝えました。課題をどんどん出したあとは、なぜそのような課題があるのか、他の課題と関連していないか、と突き詰めて考え、発見したことがあればさらに付箋を貼っていきます。そうすることで、本質的な課題に近づいていきます。

本質的な課題を見つけた後は、アイデア出しをしていきます。そうすることで、たくさんのアイデアが出てきますが、その中から具体化させたいアイデアを決めて、企画書概要書に落とし込みます。

アイデア名称 ()		6W4H
現状と課題	必要なデータ	



◀ アイデア企画概要書

各自、具体化させたいアイデアについて記載していく

- Why(どうしてこれが必要なのか)
- What(どういうアイデアか)
- Who(誰が実行するのか)
- Whom(ターゲットは誰か)
- When(いつ)
- Where(どこで)
- How(どういう手段でやるのか)
- How long(期間)
- How many(成功の目標値はどこか)
- How much(予算)

グループ作成後「観光」「文化」に分かれ、それぞれの課題感を出し合い、チーム内でベストな解決策を選び、チームの皆でブラッシュアップしていきます。ブラッシュアップ後は、各チームの発表となります。こちらでは、チーム内で選ばれ、発表されたアイデアをご紹介します。

一般市民向けアイデアソン

観光チーム

アイデア名：バス乗って来いやーズブズブ天国

現状と課題

- 沖縄市にコンテンツが少ない
- バスケットの試合などは定期的で開催しているが、他のイベントのイメージがあまりない
- 日本のアニメ・オタク文化が沖縄市に入り込んでいない（アメリカ文化はある）

必要なデータ

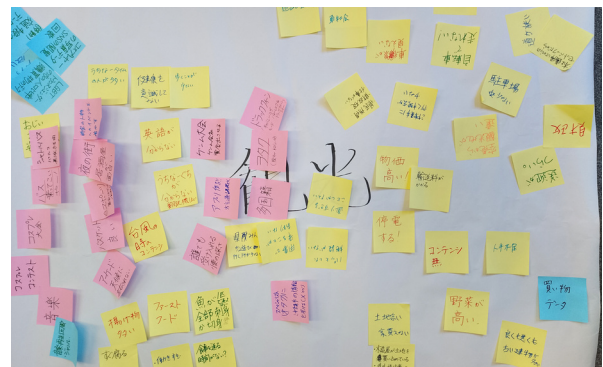
- 買い物データ
- オタク人口データ（世界、日本、沖縄）
- ゴミ焼却炉データ
- SNS観覧データ

6W4H

- Why：コンテンツ不足
What：興味のあるイベントを沖縄市で開催することでお金を使ってもらおう
Who：いろんな趣味の方々
Whom：全世界のオタクたち、スペシャリスト
When：今すぐ、年中
Where：沖縄市、沖縄市ゲート通り
How：イベント、企業誘致
How long：オフシーズン、冬
How many：魅力あるイベントが沖縄市であると周知されるまで
How much：SNS広告費（30万くらい？）

その他に出たアイデア

- おじいおばあ留学
- シーミー体験



観光チーム

アイデア名：イベントバス

現状と課題

- 沖縄市は観光地があまりない
- バス（時間守らない）、タクシー（高い）という交通の不便さがある
- 強いコンテンツがない
- 沖縄市はニッチな観光地
- コンテンツのファン同士のつながりが少ない
- 沖縄の中部にあり立地はいいが交通の弁が悪い

必要なデータ

- 交通情報
- 利用者の趣味趣向が分かるような情報
- スポーツチーム（選手）の情報
- イベント情報
- 天気情報

6W4H

Why：リアルなつながりが希薄になった。それを求めている人が多いはず

What：沖縄市のコンテンツ・地域と観光客をつなげる

Who：バス会社、イベント企画会社、地域の通り会、ホテル

Whom：沖縄市のコンテンツのファン、1人でファンしている人

When：コンテンツに応じて（エイサー祭り、野球・バレーのキャンプ、サッカー・バスケのシーズン）

Where：沖縄市中心に空港や各地観光スポット

How：空港や観光地までのシャトルバス、移動中に乗客に合わせたコンテンツ提供

How long：年中

How many：リピーターができる

How much：未定



文化チーム

アイデア名：シーサーGo

沖縄市まるごとたのしむデジタルツインツアー

現状と課題

- 地域の方が、エイサーやコザ文化などに偏り、その他多くの価値について理解度が薄い
- 文化、歴史等について自らでなかなか説明できない
- 観光客は地域を知りたいが、なかなか手軽に知る機会がない
- 観光地についても、掲示物ばかりで味気ない

必要なデータ

- 歴史テキストデータ、写真データ、動画データ、音声データ等
- 文化財データ等
- 音楽・芸能データ（ミュージシャン一覧、ライブハウス、各種演奏場所等）
- 建物データ、飲食店データ、博物館・文化会館等のデータ、駐車場等
- 交通データ
- スピーカー（語り部リスト）



6W4H

Why：沖縄市の文化を「地域の誇り」として可視化し、継承すると共に観光資源にする

What：実地域とバーチャル空間を連携するアプリケーション

Who：エリアごとの商工会&自治会、または新たな共同体（一般社団法人）

Whom：沖縄市民、沖縄県民、入域客

When：2025年（大阪・関西万博実施期間想定）

Where：沖縄市全域（将来的には広域連携）

How：スマートフォン、IoTデバイス、デジタルサイネージ等

How long：継続実施

kHow many：市民・沖縄県民（ポイント消費額、健康数値等）、入域客（ポイント消費額・タッチポイント）など

How much：検討中

■ 将来都市構造を構成する要素 - ゾーン -

交流ゾーン
国道 330 号沿線に形成されるコザ十字路からライカム交差点に至る商業地は、国際色豊かで価値的な雰囲気を持ち、新たな公共交通の導入や市街地開発事業等により魅力的でにぎわいのある交流空間を創出します。
東部海浜開発地区においては海浜部の地域特性を生かしたスポーツコンベンション及びビーチフロント観光の拠点を創出し、商業機能を有するにぎわいの場を形成します。

緑地ゾーン
市北部の嶺山原及び倉敷ダム周辺の貴重な緑地や市東部に広がる斜面緑地を保全し、緑豊かな都市環境を確保します。

農地ゾーン
市北部や東部に広がる農地においては、優良農地の保全・活用を図り、自然・農地・市街地が共存した営農空間の形成を促進します。

産業誘致ゾーン
内陸部の池武当においては、産業集積を図るとともに、市東部の中城湾新港地区においては物流産業の集積やクルーズ船就航を促進します。

市街地ゾーン
中西部や東部に広がる市街地においては、まちなみ景観の形成や密集した既成市街地の改善などにより良好な住環境の創出を図ります。



学生向けアイデアソン

アイデアソン事前講座 ～オープンデータとソーシャルビジネス～

2023年10月29日（日） 10:40～12:00 琉球大学 文系講義棟 114教室

学生向けアイデアソンでは、午前中にオープンデータの基礎知識から始まり、沖縄市のオープンデータの紹介や県外での利活用事例等を紹介し、午後に行うアイデアソンに向けて一般市民向け事前講座①②の短縮版として講座を行いました。



オープンデータアイデアソン ～オープンデータを考えてみよう～

2023年11月25日(土) 14:00～17:00 琉球大学 図書館（ラーニング・commons）

午後は場所を移動し、「観光」「文化」のチーム（各6チーム）に分かれ、グループワークを行い最終発表を行いました。

観光①チーム

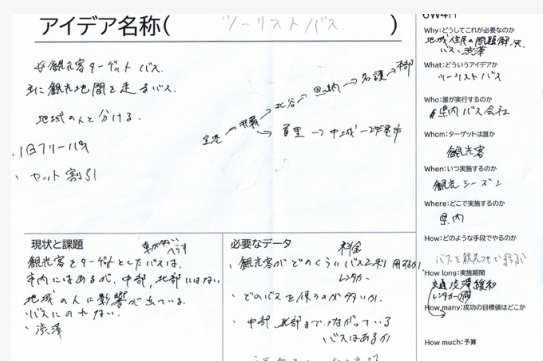
アイデア名：ツーリストバス

現状と課題

- 観光客をターゲットにしたバスは市内にはあるが、中部北部にはない
- 観光客ターゲットバス。主に観光地を走るバス。地域の人と分ける

必要なデータ

観光客がどのくらいバス（レンタカー）を利用するか（料金、人数）、どのバスを使うのか、主要観光地の観光客数



観光②チーム

アイデア名：不発弾撲滅

現状と課題

- 不発弾がどこにあるのか、どれほど処理できているのか、完全には把握できていない
- 10年間かけて、今後利用しそうな場所のみ不発弾を処理することにより土地の狭かった沖縄に地下という土地の増加につながる

必要なデータ

不発弾分布地図、戦時中の激戦区場所、地盤調査表

アイデア名称(不発弾撲滅)		OVV471
不発弾を埋め機やリモコンで埋め、位置を把握する (戦時中の激戦区場所などを活用しながら) ↓ 10年間かけて、今後利用しそうな場所のみ 不発弾を処理する ↓ 土地の狭かった沖縄に地下という土地の増加につながる		Why: どうしてこれが必要なのか 土地を増やす What: どういうアイデアか 不発弾を処理する Who: 誰が実行するのか 自衛隊 Whom: アウトは誰か 地盤調査員 When: いつ実施するのか 準備ができてから Where: どこで実施するのか イキ: 適切な周辺エリア How: どうやってやるのか How long: 準備期間 10年 How many: 成功の目標値はどれくらいか 不発弾を処理する 20% How much: 予算
現状と課題 不発弾はどこにあるのか、 どれほど処理できているのか 完全に把握できていない。	必要なデータ ・不発弾分布表 ・戦時中の激戦区場所 ・地盤調査表	

観光③チーム

アイデア名：東の食フェス

現状と課題

- 東部には観光地が少ない。集中した観光地、飲食店（キャパシティを超えている）
- 混雑緩和の為に有名な観光地が少ない（東部）にスポットライトを当て食のイベントを冬に開催する

必要なデータ

東部の広い土地調査、現在の飲食店の集客数、売り上げ、メニューなど、郷土料理の知名度・人気度調査

東側に充実させる		観光客が利用する飲食店の分散
(課題・現状) ・東部に観光地が少ない ・集中した観光地、飲食店 (キャパシティを超えている)		Why: 観光客の分散 What: 観光客の分散を促すイベント Who: 今ある店、企業、観光客 Whom: 地域住民、観光客 When: 冬 (観光客の少ない時期) Where: 東部の広い土地 How: SNS 活用、飲食イベント開催 How long: 定期的 How many: 観光客の集客数 How much: 売り上げ、メニューなど (あり) 人気度調査 郷土料理の知名度調査



文化①チーム


アイデア名：改装・新調

現状と課題

- ・ 沖縄市の文化財を知る人が少ない。知る機会が少ない
- ・ 空き家、空き地、老朽化した建物を利用して沖縄市を表すような建物を作る

必要なデータ

沖縄市を象徴するデザインや建物一覧、文化財一覧、空き家、空き地のデータ

<p>アイデア名称(改装・新調)</p>  <p>このまちでマスコットや、観光のイメージを、SNS等でアピール</p> <p>工賃、音楽、個性、牙和</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 改装、空家、老朽化した建物を利用して、沖縄市をよりよい建物にする 2. 改装、空家、老朽化した建物を利用して、沖縄市をよりよい建物にする 3. 改装、空家、老朽化した建物を利用して、沖縄市をよりよい建物にする 4. 改装、空家、老朽化した建物を利用して、沖縄市をよりよい建物にする 5. SNSで発信する 		<p>Why: どうしてやる必要があるのか 観光客の増加、観光客の増加 What: どういうアイデア SNSで発信する Who: 誰が実行するのか 観光客、地元の人 When: いつ実行するのか すぐに Where: どこで実行するのか SNSで発信する How: どのような手段でやるのか SNSで発信する How long: 実施期間 1年 How many: 成功の指標は何か SNSで発信する回数 How much: 予算 1000～5000円</p>
<p>現状と課題</p> <p>沖縄市の文化財を知る人が少ない。知る機会が少ない</p> <p>空き家、空き地、老朽化した建物を利用して沖縄市を表すような建物を作る</p>	<p>必要なデータ</p> <p>沖縄市を象徴するデザインや建物一覧、文化財一覧、空き家、空き地のデータ</p>	

文化②チーム

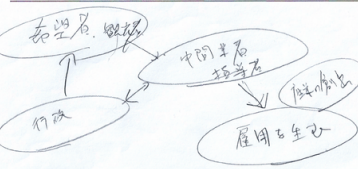
アイデア名：沖縄市伝統工芸と食文化へのいざない

現状と課題

- ・ 年々地域文化や伝統を知る人々が減り地域の事を忘れつつある
- ・ 観光客や知りたい人向けに中間業者や指導者を紹介(産業、雇用の創出)

必要なデータ

地域年齢別人口、興味度データ

<p>アイデア名称(沖縄市伝統工芸と食文化へのいざない)</p> 		<p>Why: どうしてやる必要があるのか 観光客の増加、観光客の増加 What: どういうアイデア SNSで発信する Who: 誰が実行するのか 観光客、地元の人 When: いつ実行するのか すぐに Where: どこで実行するのか SNSで発信する How: どのような手段でやるのか SNSで発信する How long: 実施期間 1年 How many: 成功の指標は何か SNSで発信する回数 How much: 予算 1000～5000円</p>
<p>現状と課題</p> <p>年々地域文化や伝統を知る人々が減り地域の事を忘れつつある</p> <p>観光客や知りたい人向けに中間業者や指導者を紹介(産業、雇用の創出)</p>	<p>必要なデータ</p> <p>観光客や知りたい人向けに中間業者や指導者を紹介(産業、雇用の創出)</p>	

文化③チーム

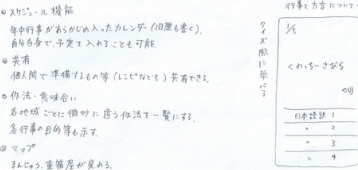
アイデア名：Yonner

現状と課題

- ・ 方言を知っている若者が少ない
- ・ 英単語みたいに方言が学べるアプリ

必要なデータ

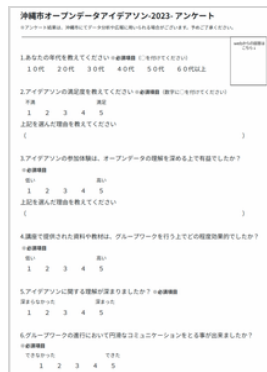
年中行事一覧、一般的な作法、果物・まんじゅう・重箱屋一覧、方言と日本語翻訳、音声データ

<p>アイデア名称(Yonner)</p> 		<p>Why: どうしてやる必要があるのか 観光客の増加、観光客の増加 What: どういうアイデア SNSで発信する Who: 誰が実行するのか 観光客、地元の人 When: いつ実行するのか すぐに Where: どこで実行するのか SNSで発信する How: どのような手段でやるのか SNSで発信する How long: 実施期間 1年 How many: 成功の指標は何か SNSで発信する回数 How much: 予算 1000～5000円</p>
<p>現状と課題</p> <p>年々地域文化や伝統を知る人々が減り地域の事を忘れつつある</p> <p>観光客や知りたい人向けに中間業者や指導者を紹介(産業、雇用の創出)</p>	<p>必要なデータ</p> <p>観光客や知りたい人向けに中間業者や指導者を紹介(産業、雇用の創出)</p>	

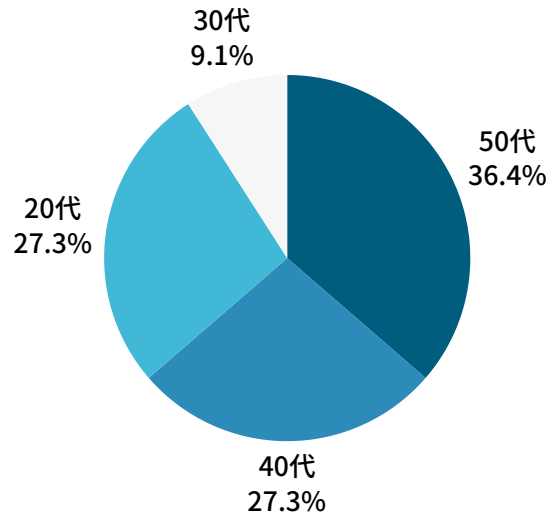
一般市民向けアイデアソン アンケート結果

アンケート回収率

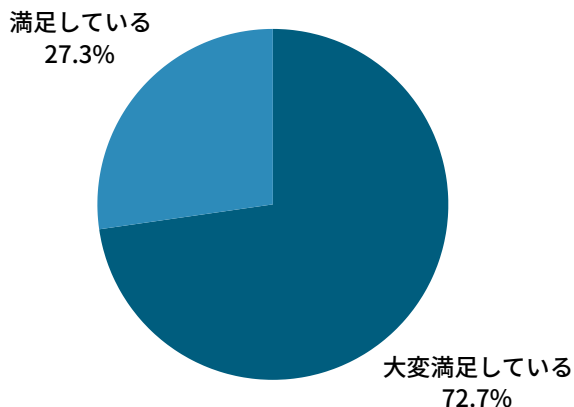
参加者：12名（リモート参加4名）
 回答者：12名
 回収率：100%
 回収方法：フォーム、紙



あなたの年代を教えてください

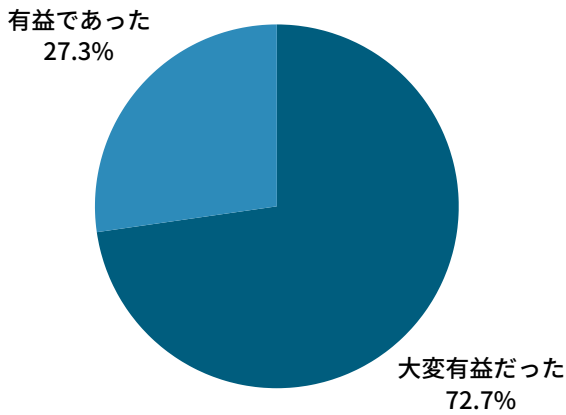


アイデアソンの満足度を教えてください



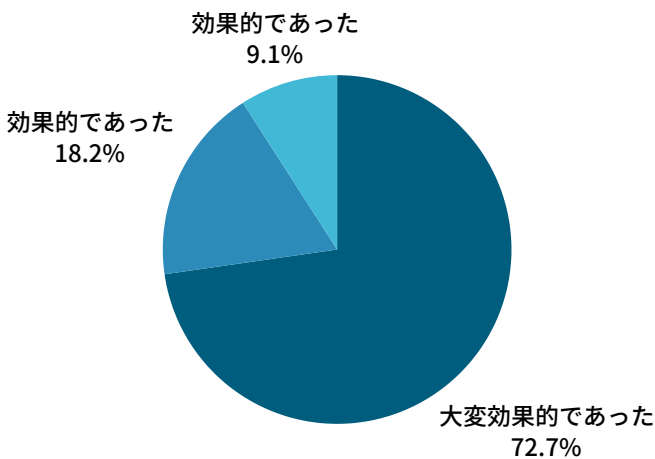
- 沖縄市民の方々と地域課題について話し合うことができた
- 課題に対しての解決策にいろんな方法があるんだと思い勉強になりました
- 知らない方とのアイディアソン、他のチームのアイディアなど、非常に刺激的な体験ができました。
- 地元の問題を考える良い機会となった

アイデアソンの参加体験は、オープンデータの理解を深める上で有益でしたか？

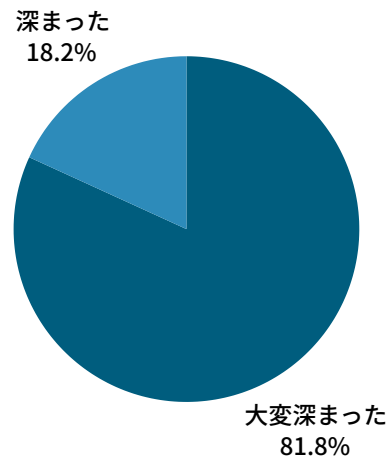


- オープンデータ自体わからなかったのですが、実際に聞いてみているんなデータがあるんだと思いました
- 解決したい課題に対して、必要なオープンデータを発想できてよかったです。
- データ活用について考える良い機会でした
- 課題や解決方法にフォーカスしていて、そのために必要なデータを考える時間が少なかった

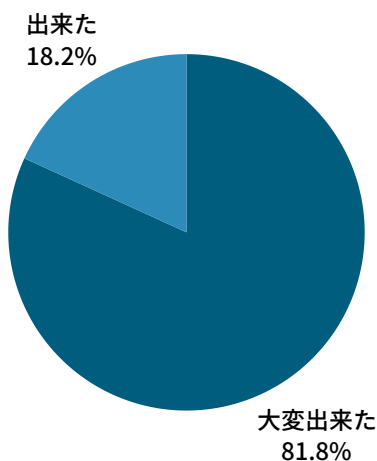
講座で提供された資料や教材は、グループワークを行う上で、どの程度効果的でしたか？



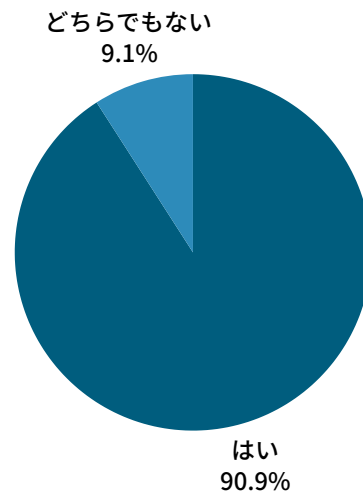
アイデアソンに関する理解が深まりましたか？



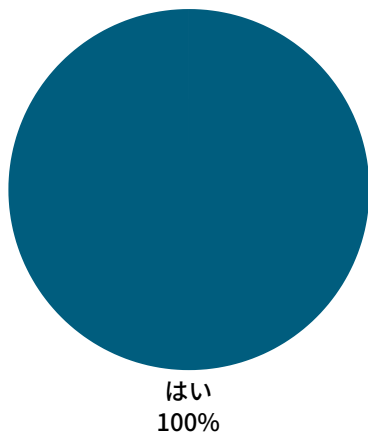
グループワークの進行において円滑なコミュニケーションをとる事が出来ましたか？



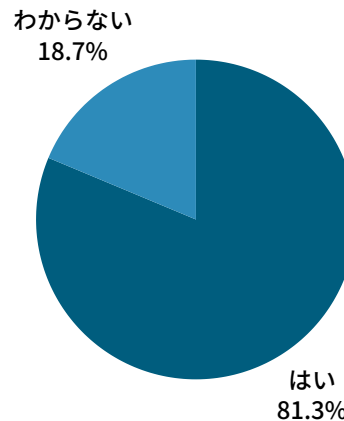
アイデアソンを通じて身に付けたスキルが今後役立ちそうですか？



■ アイデアソンはオープンデータの普及および利活用に有用だと感じましたか？



■ 来年度、オープンデータに関するセミナーやイベント等があれば参加したいですか？

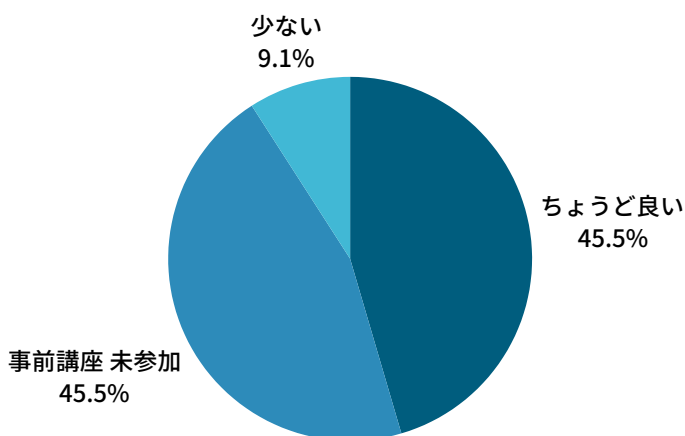


- オープンデータについて興味が出た
- オープンデータを活用して自社の事業に活用したい
- 沖縄に住んでないから
- 楽しかったから
- 今回以外のさらなる知識を深めたいため

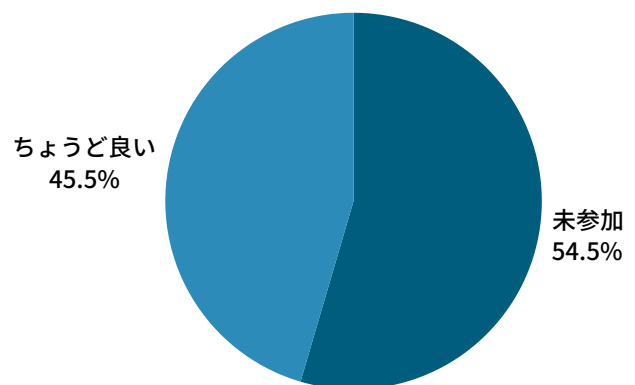
■ オープンデータにして欲しいデータとその理由を教えてください（抜粋）

- イベント情報、天気（細かい）：実際沖縄に来る目的にイベントが一つの理由だから。あと天気は何にするにせよ欲しい
- 人流データ(どこからどこへがわかるもの)：観光客の動線を見て混雑を避けたい
- 社会的弱者と言われる方のデータ（介護認定者数や生活保護世帯数、ひとり親世帯数など）：オープンデータにすることで、支援の輪が広がるような気がします。
- 交通情報：観光に大きく影響を与えるから

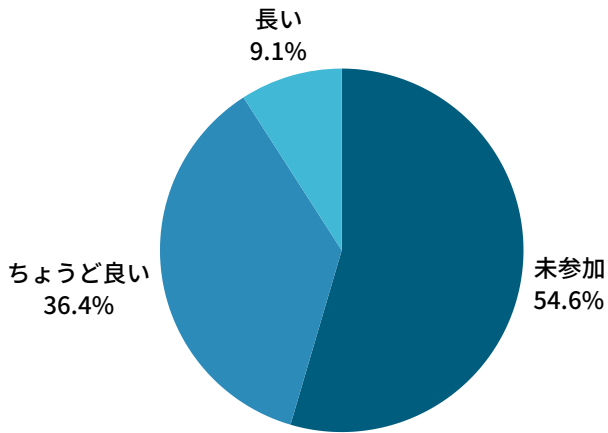
■ 今回、オープンデータアイデアソン事前講座2回、アイデアソンを実施しましたが、その回数の満足度について教えてください



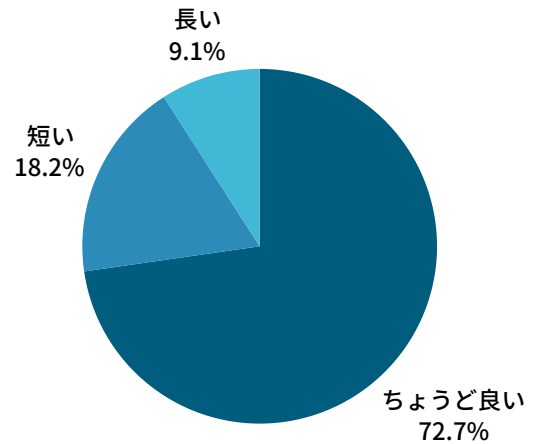
■ 事前講座①の長さ（2h）について



事前講座②の長さ（2h）について



アイデアソンの長さ（3h）について



その他、ご意見・ご感想ございましたらご自由に記載してください（抜粋）

- 楽しかったです。ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。また次回も楽しみにしています。
- 当初の希望イメージとは違いましたが、知らなかったことが多く、それらを学ぶことで考えが改められました。民間としては、オープンデータに未来への価値を見出し、まずは与えることからが大事と感じました。
- 今日はお忙しい中ありがとうございました。なにかの話題に対しての解決策はいろいろあり、斜めからくるものもありました。



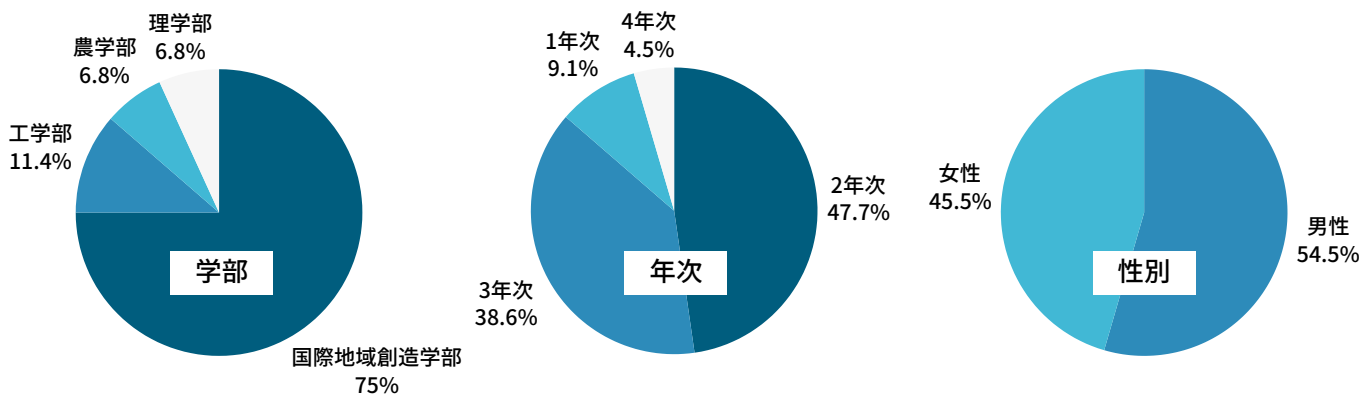
学生向けアイデアソン アンケート結果

アンケート回収率

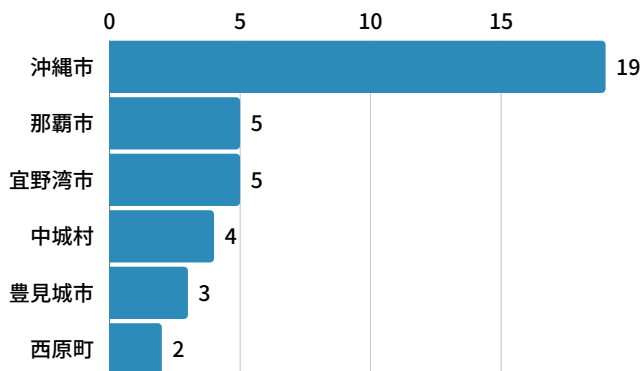
参加者：66名
回答者：46名
回収率：69%
回収方法：フォーム



参加者属性について

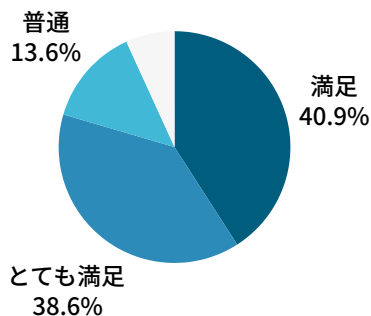


沖縄市出身、または沖縄市在住ですか？



その他：各1名
(うるま市、糸満市、読谷村、北谷町、福岡、北海道)

「オープンデータを学ぼう」(午前の部)の満足度

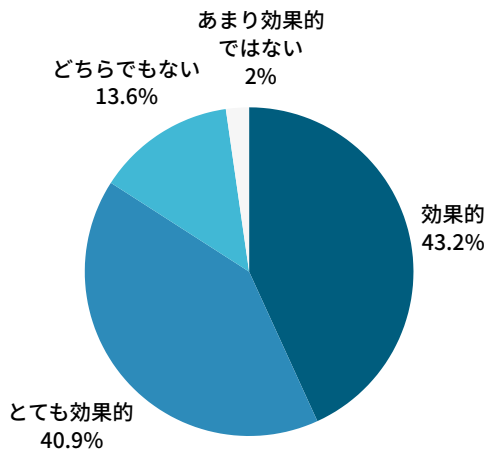


- オープンデータの存在を知れたことで、レポートを作成する際に役立つと感じたから。
- そもそもオープンデータのことを知らなかったため、今後学んで損は無い知識であったため。また、自分で調べるよりも遥かに緻密で膨大なデータを利用できる権利があることを学べたため。
- 図解がわかりやすく端的だったから

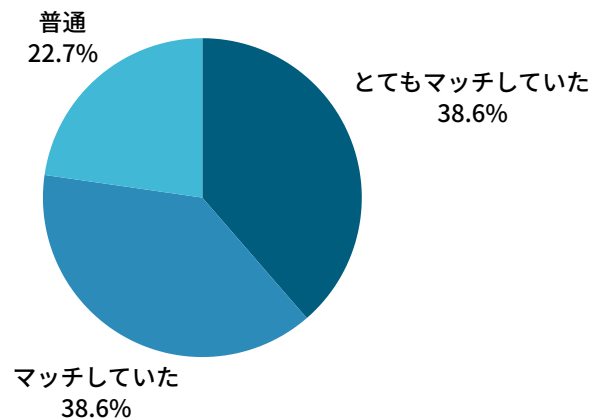
「オープンデータを学ぼう」（午前の部）で特に参考になった点（抜粋）

- データを元に新事業を起こすことを考えたことがなかったため新鮮だった。
- 行政がデータをオープンにすることで、民間で企業がうまく活用してくれることを知っておどろいた。情報を提供するだけで、新たに大きな利益が生まれることは、とても効率的だと思った。
- 政府が色々なデータを公開していたことを知らなかったのが1番印象に残りました。
- 九谷焼の画像オープンデータを住宅装飾に活かした事例
- そもそもオープンデータという言葉聞いたことがなく、海外では積極的にビジネスに用いられていると聞いて驚きました。
- "非営利と営利の両輪で市民自身が社会課題解決していく社会の構築が必要である"という最後のスライドが、とても勉強になったし一番印象的な内容でした。
- オープンデータを使用することは地域貢献に加えてビジネスにもつながるということ

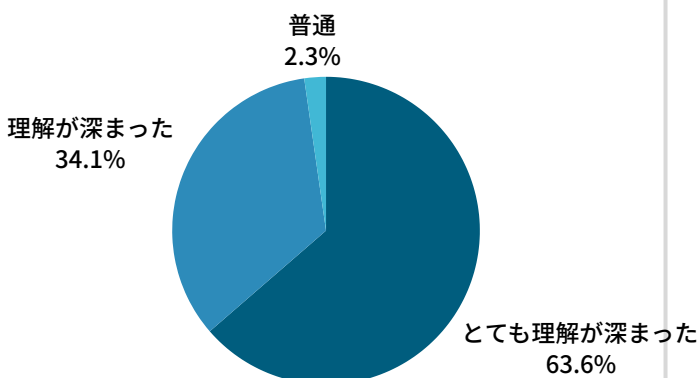
講座で提供された資料や教材が、学習をサポートする上でどの程度効果的でしたか？



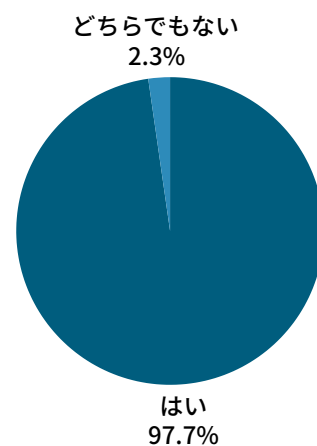
講座の難易度と自身のスキルや知識レベルは、どの程度マッチしていましたか？



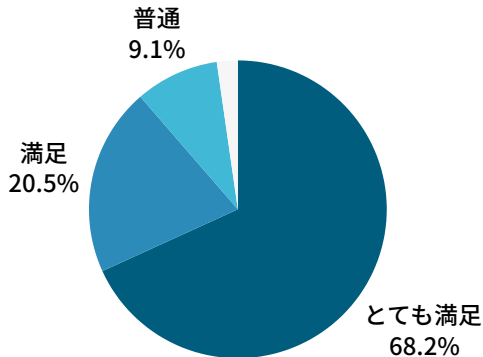
オープンデータに関する理解が深まりましたか？



講座で学んだ内容が勉強または将来で役立ちそうですか？

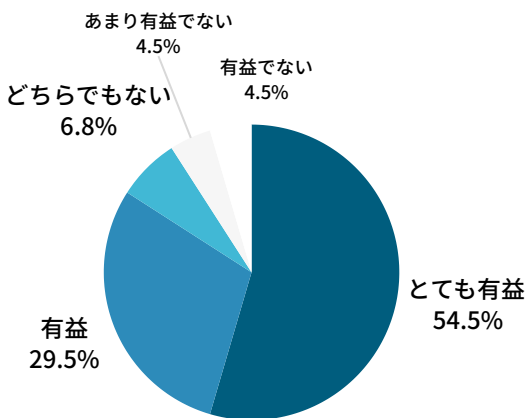


アイデアソン(午後の部)の満足度を教えてください。



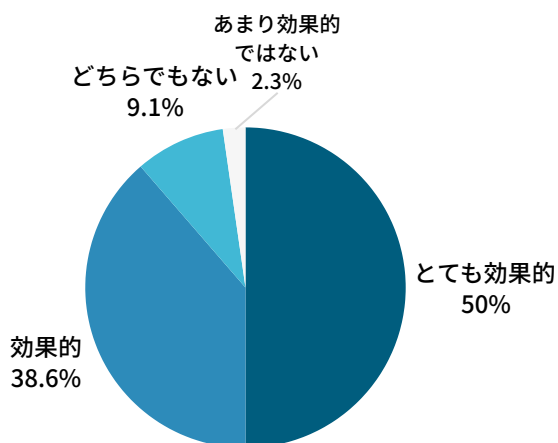
- アクティブラーニング型の授業展開が好きなため。
- いろいろな人の考えや価値観を学ぶ事ができた。
- ひたすらアイデアを出すことは苦手分野だったので有意義なものになった。
- 自分の意見をたくさん出せた。みんなが好意的に受け止めてくれる環境がとても良かった。周りの人の意見のレベルも高く、互いにたくさん意見を出し合えた。
- 自身では思いつかないようなアイデアをグループから多く聞けて良い学びに繋がりました。

アイデアソンの参加体験は、オープンデータの理解を深める上で有益でしたか？

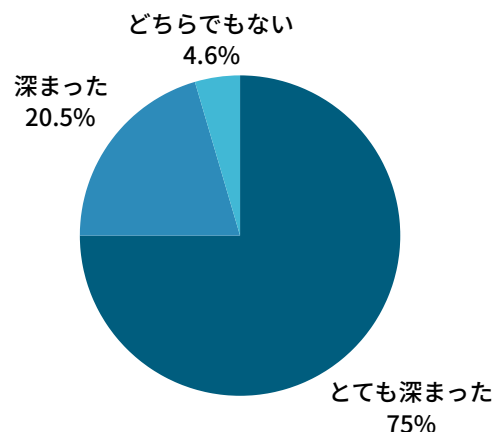


- アイデアソンは時間が制限されてる中でアイデアを次々と創出しなければいけないから実際に体験することで学ぶことも多かったし、オープンデータと関連づけた課題解決策等を模造紙に貼り出す作業はとても有意義だったから。
- アイデアを、出すと、必ず裏付けや資料が必要になる。そのデータ収集に活用できる利便性が非常にあるツールであると思う。
- オープンデータを知っていると、よりアイデアの幅が広がったから。
- 解決したい課題に対して、使えそうなデータは何か考えることで、今現在、公開されているオープンデータの活用方法について考える機会になったから。

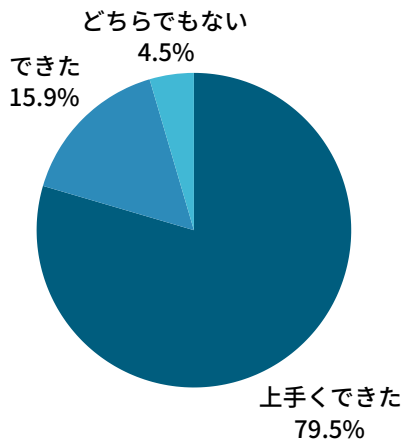
提供された資料や教材は、グループワークを行う上でどの程度効果的でしたか？



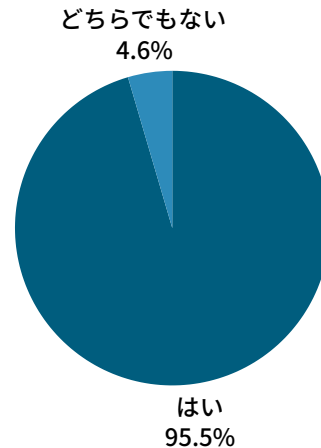
アイデアソンに関する理解が深まりましたか？



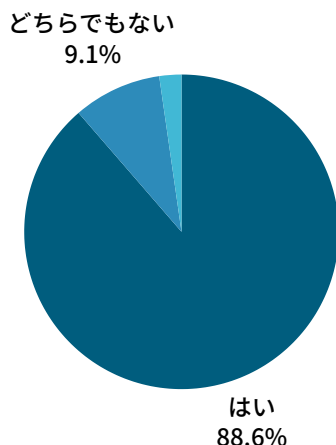
グループワークの進行において円滑なコミュニケーションをとる事が出来ましたか？



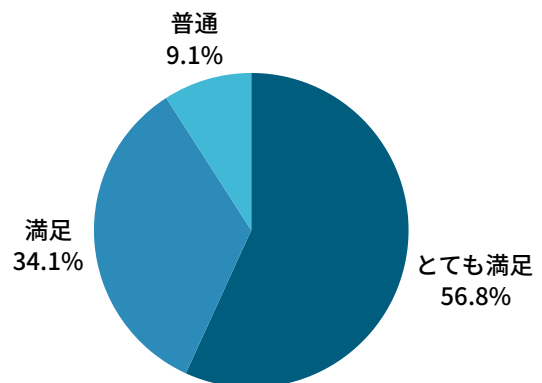
アイデアソンを通じて身に着けたスキルが今後役立ちそうですか？



アイデアソンはオープンデータの普及および利活用に有用だと感じましたか？



講座の進行具合に対する満足度を教えてください。



オープンデータにして欲しいデータとその理由（抜粋）

- 空き家、空き地の場所：利用価値が高いから
- 交通系のデータも欲しいなと思いました。：施設一覧などのデータが多かったため
- 沖縄の市町村別の使用されている資金データ：市町村ごとのお金の使い道を知ること、観光に行かせると思ったから。
- 曜日ごとの人の移動ルート：交通の渋滞問題に使えるデータであるため。

その他、ご意見・ご感想ございましたらご自由に記載してください（抜粋）

- オープンデータというワードも今日初めて聞いたのですが、今回の講義だけでも現状や活用法、ワークショップを通じて自分自身でもオープンデータの必要性に気づくことができたため、とても有意義な時間だった。貴重な講義ありがとうございました。
- 公衆電話の場所のデータや郵便ポストのデータ、ATMのはデータ、証明写真のデータがあると便利だとも思いました。
- グループで意見を出し合う時間が、もう少しだけ欲しかったです。